

播但連絡道路の大規模修繕等に関する有識者会議

設立趣旨

播但連絡道路（以下「播但道」。）は、兵庫県道路公社が管理する一般有料道路（自動車専用道路）であり、本県の基幹道路八連携軸の主要南北軸として但馬と播磨を結び、さらに、山陽道、中国道等と接続して、全国の高速道路ネットワークを形成している。

播但道は、「産業の活性化」、「地域間交流の促進」、「渋滞解消」などに大きく寄与するとともに、災害時の緊急輸送道路にも指定されるなど、安全・安心で豊かな暮らしを支える本県の大動脈として重要な役割を担っている。

昭和 48 年 11 月の砥堀から福崎間の約 10 km の供用にはじまり、順次南北に延伸し、平成 12 年 5 月には姫路市の姫路バイパス本線から朝来市和田山町の北近畿自動車道に接続する全線約 65km を供用し、通行台数は約 46 千台／日となっている。

播但道では、全線の約 3 割の区間が橋梁・トンネルといった道路構造物で構成されているが、供用後 35 年以上を経過した区間が 6 割に達し、他区間も 20～28 年を経過するなかで、道路構造物の経年劣化による損傷が顕在化している。

このような状況において、自動車専用道路に求められる管理水準を維持するための対策、また、将来発生が想定されている大地震を見据えた耐震性能の一層の向上を一体となって進めていく対策が喫緊の課題となっている。

そこで、播但道を将来にわたって健全な状態で管理していくため、構造物の大規模な修繕の必要性、実施に必要な財源策等を含めた大規模修繕のあり方について、本会議を設置し、学識経験者並びに道路利用者の方々の御意見、御提言をいただくものである。

令和元年 9 月 17 日

兵庫県
兵庫県道路公社